

**【施策評価調査】**

施策名	6-3-2	公聴活動		133	施策を推進するには、 情報の発信：住民にとって、知りたいことが“わかる！” 情報の受信：住民にとって、言いたいことが“言える！” 情報の資源化：集めた情報が、資源に“変わる！”...という3点からのアプローチが必要だと考えます。 当施策は、の観点から住民とのコミュニケーションを活性化するために実施します。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	秘書広報課	担当 リーダー	広報公聴担当 小池 哲也		
環境変化	町で条例等を策定する際には、住民からのご意見・ご要望を聞く「パブリックコメント制度」を運用しています。また、「まちづくり基本条例」の検討委員や「行財政改革委員会」の委員など公募して選任しています。 町政懇談会やご意見板など、住民の声を受け入れる仕組みを充実させます。				住民のみなさんが行政に対して意見や提案を述べやすい公聴活動の実現に向けて、既存の活動を再構築するとともに、ホームページを活用して電子会議室等を開設し、住民のみなさんの声を迅速に受け止める仕組みを整えます。 また広報誌においても、住民のみなさんからのご意見やご提案などを幅広く集める手段として充分に活用し、施策展開にも反映できるような仕組みを検討していきます。（「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋）

**指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：年間意見件数(件) 「ご意見板」・公聴システム	H16年度実績(年間件数) 19件	計 画	30件	40件	50件 公聴システム運用	120件 月10件	180件 月15件
		実 績	19件	28件	43件		
指標：電子会議室登録者総数(人)	H17現在、電子会議室は未設置 0人	計 画	0人	0人	0人	20人	40人
		実 績	0人	0人	0人		
指標：		計 画					
		実 績					
指標：		計 画					
		実 績					
指標に関する特記事項	指標は、ホームページ上からのご意見板及び担当課メールによる町民の方からの要望・ご意見等をいただき、要望等への回答を行っています。						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年 度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当 初	9,000	0	0		
	決 算	0	0	0		

**事務事業事後評価 20年度の検証**

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
	当初						
	決算	/		今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性 (自己評価)		今後の方向性 (総合評価)	

**施策事後評価 20年度の検証**

自己評価	施策達成状況に関する評価		課題と今後の方向性	
		条例や計画の策定にあたっては、3件のパブリックコメントを実施しています。住民が行政に対して意見や提案を述べるホームページのご意見番等には43件の声が寄せられています。新規事業の「あなたが主役のまちづくり懇談会」も2回開催されました。住民のみなさんが行政に対して意見や提案を述べやすい公聴システムも拡充・浸透してきたことにより、施策展開にも反映できるよう試行錯誤を続けています。	公聴事業は、「あなたが主役のまちづくり懇談会」と仕組みを変え、広報等でPRしましたが、まだ周知度が低く、H20年度の開催は2回(目標6回)でした。今後は住民が集まる場や広報等での周知・浸透に努め、意見等の集約を図っていきます。公聴システムについては、既存のシステムをベースに、電子会議室等新たなシステムも検討しながら、住民の意見や提案をよりスムーズに施策展開に反映できるような仕組みづくりを進めていきます。	
総合評価	■ 総合評価 ■ 期待した成果が得られていないと評価する。 後期計画策定に向け、各部課で行っている公聴活動等(検討委員会・モニター制度等)と今後どうすり合わせていくのか、また受けた意見・提案をどう各課に共有させるのか、また各施策等に反映させていくのか、公聴活動のあり方、仕組みを検討すること。			